

講義名	組織心理学		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	森上 幸夫		
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 4時限		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		講義コード	54020

主題と概要

組織のとらえ方は多様である。ひとつの目標のもとに人々が集まる状態をさすこともあれば、役割と地位を有する人々の関係をさすこともあり、また情報を処理するシステムとみなしたり、利益を生み出す活動を継続する主体とみなしたりすることもある。

このように、組織とは多義的な概念であると言えるが、いずれにしるその実態は社会や文化を背景にした複雑な問題が必然的に生じることになる。そのような組織の問題の解決に対して、現代の行動科学の方法論と知見は重要な役割をはたしてきた。なかでも組織心理学は、産業心理学、社会心理学、応用心理学、グループ・ダイナミックス等の関連領域と連携しながら、組織の問題に関する膨大な研究成果を蓄積している。

組織心理学は、組織の問題を多面的に理解し、その問題を社会科学的に解決する方法を考察する。

到達目標

組織心理学の講義は、組織の問題を、組織内の個人、組織と心身の健康、組織と個人の関係、組織のダイナミックス、の4つの点から検討することを目的に、関連領域の業績とあわせて、その調査結果あるいは実験結果の紹介をおこなう。

それぞれの組織の問題について多様な視点から把握を試み、その解決について社会的な観点から合理的かつ客観的に考察できる力を修得することが目標である。

提出課題

毎回、講義内容に対する理解度確認のための課題提出を求める。

評価の基準

毎回、出席を確認し、講義内容の理解度を確保するための課題をおこなう。また中間課題として、それまでの講義内容を要約したレポート課題（試験形式）を実施する。期末には課題（テストあるいはレポート）を実施する。評価は、出席、毎回の課題、中間課題、期末課題を総合的に判断する。評価における割合は、「出席点」が20%、「毎回の課題」が20%、「中間課題」が30%、「期末課題」が30%である。

履修にあたっての注意・助言他

講義では必ずノートをとること、課題・レポートの回答は自らの頭で考え、自らの言葉で述べたものであることを求める。また、講義内容については常に疑問をもち、興味・関心のある事柄は講義外においても考え続け、関連する文献・情報を手に入れようとする態度が大切であるとする。

教科書

.使用しない.

プリント資料及び参考文献

「仕事とライフ・スタイルの心理学」 西川・森下 他編 福村出版 2001
「経営組織」 金井 著 日経文庫 1999
「OSI職業ストレス検査」 Osipow 原著 田中・渡辺 著 1997

授業計画

1. 組織心理学への導入 1 「組織心理学の目的と方法」
2. 組織心理学への導入 2 「組織の定義と組織心理学の展開」
3. 組織内の個人 1 「個人の意欲を高める組織環境」
4. 組織内の個人 2 「個人の意欲を説明する理論」
5. 組織内の個人 3 「組織における人間観」
6. 組織と心身の健康 1 「組織とストレス」
7. 組織と心身の健康 2 「組織内ストレスの対処と燃え尽き症候群」
8. 前半のまとめと中間課題 「授業理解の確認」
9. 組織と個人の関係 1 「組織の規範と権威の影響」
10. 組織と個人の関係 2 「組織の多数者と少数者の影響」
11. 組織のダイナミックス 1 「組織目標とリーダーシップ」
12. 組織のダイナミックス 2 「組織内のリーダーの役割」
13. 組織のダイナミックス 3 「組織内の力関係」
14. 組織心理学のまとめ 1 「組織心理学の要約」
15. 組織心理学のまとめ 2 「組織心理学の展望」

予習・復習

「1回目と2回目の授業後に各3時間の復習」、「3～5回目の授業前に関連資料もしくは参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「6回目と7回目の授業前に参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「8回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間、および課題内容についての2時間の復習」、「9回目と10回目の授業前に関連資料と参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「11～13回目の授業前に参考文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「14回目と15回目の授業前にそれまでの授業内

備考

なし